

記 録

大学・編纂・文書館

— 広島大学文書館ぶんしょかん設立準備企画公開プレ・シンポジウムの記録 —

「司会(小宮山道夫)」本日はご来場を賜り、まことにありがとうございます。シンポジウムの開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず、緑色のA3サイズのプログラムが一枚あります。この中にA4のアンケート用紙が入っています。ぜひアンケートにお答えいただければと思います。そして、本日第一講演の有川先生より、封筒入りの資料を頂いております。第二講演の岩壁先生より頂いた五枚組みのレジュメがございます。以上です。

それでは、広島大学文書館設立準備企画公開プレ・シンポジウム「大学・編纂・文書館」を始めたいと思います。開会のあいさつを、広島大学長牟田泰三先生より頂きます。よろしく願います。

開会あいさつ

広島大学長 牟田 泰三

皆さんこんにちは。ご紹介にあずかりました牟田でございます。広島大学はご存知のように来年の四月に法人化いたします。新しい大学として再出発するということになるわけで、この改革を機にですね、大学をよりよくするように努力していきたいと我々考えておるわけです。振り返ってみますと、広島大学では、初代学長であった森戸辰男が開学の記念式典の席上で述べた言葉のなかに、「自由で平和な『一つの大学』』という言葉がございます。我々はこの言葉を継承しながら、この大学の発展に努力してきたわけですが、平成七(一九九五)年には理念五原則というものを制定しました。この中身を言うのは時間の関係で避けますけれども、こういう理念を高く掲げて進んできたわけですが、ただ特に法人化をするに当たって、この大学としては直接の目標を置く必要があるということで、私いろいろと考えまして、皆さんには「世界トップレベルの特色ある総合研究大学」、これを目

指そうではないかということと事あるごとに述べさせていただいております。まあ、今日もしつこく言わせていただきます。この世界トップレベルの特色ある総合研究大学という目標、ある意味で夢なんです。この夢をただ思い描いているだけでは何も起こりません。それで、これを現実のものにする為に、ロードマップを敷く必要があります。そこで、「広島大学長期ビジョン」というものを、今年の初めに評議会に提示いたしました。この長期ビジョンのなかで、三段階に分けた段階的な方策を具体的に述べております。これに従って広島大学は着々と発展を続けて、それで到達目標、即ち夢を実現するようにしたいと考えているわけでございます。

こういう大きな変革の時期にさしかかっている広島大学で、来年の法人化を機に広島大学文書館を設置したいということで、大学のなかでもこの一年ぐらい議論を続けて参りまして、いよいよ来年の四月に設置ということで、具体的な目標を進めている状況で、このシンポジウムもそういう状況のなかで準備されたわけでございます。広島大学文書館には二つの機能を有したいと考えております。二つの機能のうちの一つは、情報公開法に基づいて広島大学の公文書を整理・保存・公開する機能、これが一つの機能。それともう一つの機能は、これは従来続けてきたんですが、広島大学五十年史編纂事業、もうほぼ終了しておりますが、この五十年史編纂事業を継承して、広島大学に関する史資料の収集を積極的に行うと同時に、これを広く市民の皆様にもシンポジウムとか展示会等の形でお知らせすると。そして広島大学の歴史を公開していこうという機能、これが第二の機能でございます。こ

の二つの機能を広島大学文書館には持たせたい。そういうわけで、この文書館のなかに二つの室を置きます。一つは公文書室、もう一つが大学史資料室、この二つを置く予定でございます。

今日のこのシンポジウムでは、文書館のこの二つの機能に対応して、皆さんにいろいろとご議論をいただいで、この二つの機能の在り方について理解を深めていただきたいと思っております。そういうわけで、「大学・編纂・文書館」という三つのタイトルを置いて、シンポジウムを開催することになったわけでございます。講師には、九州大学史料室長の有川節夫先生、それから宮内庁書陵部編修調査官の岩壁義光先生をお招きしております。

有川先生には「大学改革と文書館」というタイトルで、法人化という大学改革のなかで、文書館設置の意義についてご講演いただけると思っております。有川先生のご経歴等についてはお手元のプログラムに書いてありますので省略してもいいんですが、一言述べさせていただきます。有川先生は理学博士で、情報科学をご専門にされております。現在は九州大学の副学長という要職で大変お忙しいお立場でございます。そのご専門の立場から、それから大学改革の牽引役としての立場から、広島大学文書館の公文書管理・保管・公開の行い方について、またそのような機能の意義についても有益なご指摘をいただけるものと理解しております。

それから岩壁義光先生には「明治天皇紀編纂と史料公開・保存」と題して、『明治天皇紀』編纂の実態と、その際収集した史料の公開・保存の現況と問題点について、ご講演をいただくことになっております。

す。岩壁先生は日本近代史をご専門にされておられ、現在昭和天皇実録の編纂を行っておられます。本日の講演では、編纂事業と史料の保存・収集・公開等の問題についてご講演いただき、広島大学文書館の機能の一つである大学史資料の収集・保存・公開について貴重なご助言をいただけるものと思っております。

お二人のご講演と質疑応答を通じて、多くの方々に文書館の事業についてご理解いただき、来年四月に発足予定の文書館のいろんな支援材料として利用していただけたらと思っております。このシンポジウムにおける議論で、公文書の整理・保存・公開を通じて大学の情報公開機関としての位置づけを明確化し、それからさらに大学史研究を中心としつつ地域に貢献する機関として、国立大学法人広島大学文書館に対する理解を深めていただくことを期待します。広島大学文書館は多くの方々からの貴重なご意見を取り入れつつ、地域に根ざして成長していくものと考えております。

以上で開会のご挨拶とさせていただきます。本日は皆さんお忙しいなか、どうもありがとうございます。

「司会」どうもありがとうございました。それでは引き続きまして、本日の第一講演「大学改革と文書館」に移ります。有川節夫先生よろしく申し上げます。

大学改革と文書館

有川 節夫

はじめに

九州大学の有川でございます。本日はこのような記念すべきシンポジウムにお招きいただきまして、非常に光栄に存じます。同時に、身の引き締まる思いであります。

私がここに呼ばれましたのは、副学長であり大学史料室長を兼ねているからだと思えます。私に与えられたタイトルは「大学改革と文書館」ですが、これは例えば私どものところの新谷恭明教授とか、皆さんよくご存知の寺崎昌男先生のご著書などを見ていますと、文書館と大学改革がしつかりと関連づけられておりますので、そういったことに関しまして少し違った観点から話をしろということだと理解しております。文書館は、私どもは「大学史料室」といつておりますが、これまで、新谷教授が室長をなさっていました。後ほどご紹介しますが、けれども、昨年四月に大学の規則改正があり、副学長あるいは総長特別補佐の一人が室長を努めるようになり、私にその役が割り当てられました。私にその役が割り当てられました。

大学史料室といえますと、文字が示しますように、史学との関係が深い組織であり、そういった範疇のものと考えられがちで、実際、これまで設立準備等で音頭をとってこられた方々もそういった関係の人が多かったのではないのでしょうか。そして、非常に長い期間をかけて